

多様な声で社会をつくる

咲かせましょう！参画の花を！

私たちが生活している中で「こうなったら生活しやすい」「ここを改善してほしい」と思うことはありませんか？

今号では、誰もが暮らしやすくなるための意思決定の場への女性の参画について考えます。【問】男女共同参画推進室 ☎626-7525

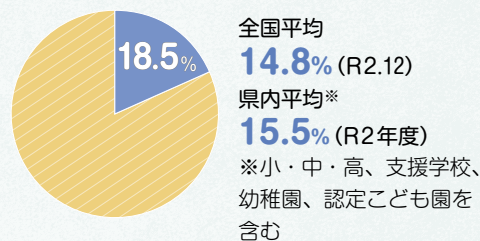
皆さんの周りはどうですか？

盛岡の女性参画の現状

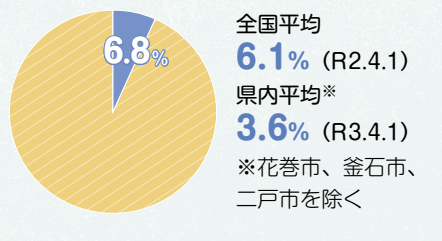
PTAや町内会、市議会などの意思決定の場に、盛岡の女性はどのくらい参画できているのでしょうか。

盛岡市における女性の割合

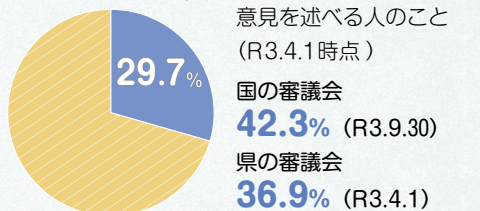
●小・中学校のPTA会長（R3.5.1時点）



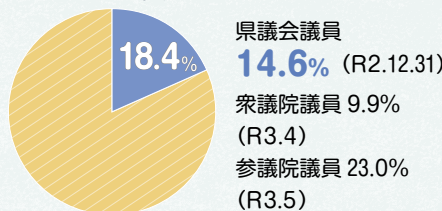
●町内会・自治会長（R3.4.1時点）



●市の審議会委員※



●市議会議員（R3.4.1時点）



盛岡市の数値が全国平均や県内平均を上回っている項目もありますが、いずれも70%以上を男性が担っている状態です。この偏りを改善していくために、市では令和6年度までに「市の審議会委員」の女性の割合を40%以上にすることを目標としています。

参考：「女性の政策・方針決定参画状況調べ（内閣府）」
「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況（内閣府）」
「国の審議会等における女性委員の参画状況調べ（内閣府）」
「男女共同参画白書（内閣府）」
「地方公共団体の議会の議員及び長の所属党派別人員調等（総務省）」
「令和2年度岩手県男女共同参画年次報告書（岩手県）」

なぜ偏りがあるの？

女性の参画には、それを阻むさまざまな要因があります。その一例と解決策のヒントを紹介します。

要因例 1

家庭や仕事との両立が大変

- やることや集まりが多くて大変そう…
- 忙しくて参加は無理…

解決策のヒント

運営方法を工夫してみよう

- 役員の仕事を見直す
- 会議の開催日時を工夫
- メールなどの活用 など

要因例 2

固定観念・慣例

- リーダーは男性の方が頼れる…
- 女性は家のことがあるから…
- 前例がない…

解決策のヒント

思い切って変えてみよう

- 女性にリーダーを任せる
- 家庭での役割を交代する
- 好事例を参考にしてみる など

要因例 3

いろんなことに自信がない

- 人をまとめる自信がない…
- 先頭に立った経験がない…
- 私よりも、もっと適任者がいるのでは…

解決策のヒント

組織内でサポートしよう

- 一人で抱え込まず分担する
- 分かりやすい手引きを作る
- 輪番制、当番制、複数体制を取り入れてみる など



* 我ら、花咲かせ隊

意思決定の場で活躍する皆さん の声をご紹介します

西青山二丁目
町内会長
あねは かずこ
姉齒 和子さん

町内会長はやりがいのある仕事

ずっと住んでいる青山地区のために、少しでも役に立てればという想いで町内会長を務めています。運営に携わると、今まで見ていた世界が変わります。また、役員や地域の皆さんと接する中で、多くの考え方を学ぶことができますね。意思決定の場にもっと女性が増えると、雰囲気も明るくなって、きっと楽しくなると思いますよ。

男女共同参画審議会
公募委員
ゆきこ
三浦 由紀子さん

自身の経験や学んだことを還元したい

子育てにより続けたかった仕事を退職せざるを得なかったなどの経験から、将来の世代には同じ思いをさせたくないと思い、委員に応募しました。どの人にも、日々の生活の中で、疑問に感じることはあるはず。その想いを形にするために、ぜひ若い世代の人たちにもチャレンジしてほしいですね。

誰もが参画しやすい盛岡へ

例えば地域活動では、女性が役員になったことで相談しやすくなった、家族を巻き込んで地域に関心を持ってもらえるようになった、男性との協力体制が強まり、活動がさらに活発になった、などの例も見受けられます。多くの人の参加が、多くの人の元気を生み出しています。

自分の意思を伝える力をつけるために

自分の声を「意思決定の場」に届けるために、どのような方法があるのでしょうか。

自分の考えを深め 意思を伝える力を

- 身近な問題や課題に関心を持つ
- 家族や職場、友人と話し合ってみる

一人の行動は周囲の勇気づけに

- 選挙は投票に行く
- 関心のある分野の審議会の委員に公募してみる
- 町内会やPTAの場で意見を言ってみる

* 取り組みやすいところから、一歩踏み出してみましょう！

女性も意思決定の場に
参加しやすい社会へもりおか女性センター
うまだ まさひろ
植田 眞弘センター長

男女間の賃金や昇進の格差など、日本のジェンダーギャップ指数^{*}はとても低く、日本の女性参画は国際的には遅れています。これは高度経済成長期に経済発展が最優先され、男性は会社のために、女性は家庭のために、という性別による役割分担が固定化したためです。人生における選択肢は、性別に関わらず、女性も男性も等しく与えられるべきものです。そのために、私たち一人一人が目の前にある「当たり前」にとらわれず、「女だから、男だから」と刷り込まれている考え方や社会の違和感に気づき、行動する必要があります。女性が、意思決定の場にチャレンジするとき、いまだに女性が担うことが多い、家事や育児、介護などを理由に諦めることがない社会を目指しましょう。

※ジェンダーギャップとは、賃金や就業率などさまざまな要素において、男女の違いで生じる格差のこと。指数が高いと男女平等に近い。

男女共同参画推進室からのお知らせ

● 誰もが暮らしやすいまちになるために

性には、男女の区分だけではなく、さまざまな形があります。性的マイノリティ（性的少数者。LGBTなどの総称で表されることがある。）の人は、全人口の8～10%いるといわれています。性別などに関わりなく、誰もが暮らしやすいまちになるよう、市では「第3次盛岡市男女共同参画推進計画」に基づき、さまざまな取り組みを進めています。

● DVかもと思ったら…

迷わずにご相談ください。

市の相談窓口

● もりおか女性センター ☎604-3304

月・火・金曜は10時～17時、

水・木曜は10時～20時

※予約優先。毎月第二火曜、年末年始、祝日を除く

● 子ども青少年課 ☎613-8354

月曜～金曜、8時半～17時半